

平成19年
5月31日

病害虫発生予報 6月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(葉いもち), イネドロオイムシ	1
ナシ：黒星病, カメムシ類, ナシヒメシンクイ	2
夏ネギ：べと病, さび病, 黒斑病, ネギアザミウマ	3
半促成ピーマン：アザミウマ類	4
小麦：赤かび病	5

【その他の病害虫】	5
水稲, ナシ, ブドウ, カキ, スイカ, 促成キュウリ	

・ 病害虫ミニ情報

ナシを加害するハダニ類の薬剤抵抗性と防除について	6
--------------------------	---

・ 今月の気象予報

・ テレホンサービス

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は、平成19年5月23日現在のものです。

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在、置苗でのいもち病の発生は例年通り認められなかった。
気象予報によると、6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、発生に適した条件である。

発生好適条件：気温 20～25 で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では特に発生に注意する。
例年6月下旬から発生するので、粒剤で本田防除する場合は、発生前を目標に施用する。
粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合は、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。
防除所の調査地点では、約50%のほ場で置苗が認められる。置苗はいもち病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等処分する。
中干し等の栽培管理を徹底し、イネの健全育成に努める。

水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間は1週間程度とすること。

2. イネドロオイムシ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在、越冬成虫の発生量及びイネへの産卵数は平年よりやや多かった。
気象予報によると、6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

育苗箱施用剤を使用していない水田では、曇雨天が続く場合は注意が必要である。また、霧が発生する地域等では発生が多い傾向がある。
長期に曇雨天が続く場合は、育苗箱施用剤を使用していても、6月中旬以降に発生が多くなる可能性がある。
発生推移として、幼虫は6月上旬頃から発生し、被害は6月下旬に最も多くなる。7月上旬には終息するが、幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行う。

ナ シ

1. 黒星病
[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，発病葉率及び果率は平年並である。一方，発生地点率は，葉で平年よりやや高く，果実で平年並である。

気象予報によると，6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病した果そう基部，葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。その後，防除暦に基づき薬剤防除を行う。

薬剤散布量は，10a当たり300リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌の出現を回避するため，DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則3回以内に抑えることが望ましい。

2. カメムシ類
[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや遅い	やや少ない（越冬世代）	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への誘殺は認められない。

本年2月の山林での越冬量調査の結果，越冬虫は過去11年中最も少なかった。

サクラにおける発生状況調査で，5月下旬にチャバネアオカメムシ成虫及びクサギカメムシ成虫の生息が確認された。

[防除上注意すべき事項]

多目的防災網（6mm目または9mmクロス目）を張るなどの物理的な防除対策を行う。

ナシ園に多数のカメムシ類が飛来した場合，防除暦を参考に防除を行う。防除は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

3. ナシヒメシンクイ
[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

フェロモントラップ（笠間市）への誘殺数は，5月下旬現在は平年並であるが，4月のピーク時は平年よりやや多かった。

(ナシ ナシヒメシンクイ 続き)

[防除上注意すべき事項]

今後は次世代成虫が発生するため、テレホンサービス等の情報を参考に適期防除に努める。
薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては、
手散布等により補正散布を行う。

夏ネギ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在、県南地域で発病度、発生地点率ともに平年よりやや高い。また、県予察圃に
おける発病度は平年より高い。

気象予報によると、6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、発生に適
した条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
薬剤散布は丁寧に行う。また、薬剤を散布する際は、収穫前日数に十分注意する。
肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

2. さび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在、県南、県西地域で、発病度、発生地点率ともに平年よりやや高い。また、県
予察圃における発病度は平年より高い。

気象予報によると、6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、発生に適
した条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
薬剤散布は丁寧に行う。また、薬剤を散布する際は、収穫前日数に十分注意する。
肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

3. 黒斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

(夏ネギ 黒斑病 続き)

[予報の根拠]

5月下旬現在，発病度，発生地点率ともに平年よりやや高い。
気象予報によると，6月中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
薬剤散布は丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。
肥料切れや多肥は発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

4．ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，被害度，発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなるので，発生が認められる圃場では，できるだけ早期に防除を行う。
発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。

半促成ピーマン

1．アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

5月下旬現在，寄生花率，発生地点率ともに平年より高い。
今後気温の上昇とともに，発生を助長する条件となる。

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
薬剤散布は，薬液が葉裏や花にもかかるよう丁寧に行う。
薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

小麦の赤かび病について

[現在の状況]

5月下旬現在，発病穂率，発生地点率ともに平年並である。

[防除対策]

収穫が遅れると，赤かび粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため，適期収穫に努める。

収穫時には，赤かび粒が混入しないように十分注意する。

収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。

小麦を調製する際に，グレーダー網目を基準より大きく（2.4mm 以上）すると，赤かび粒の混入を軽減できる。

～ 赤かび病の防除を徹底し，高品質麦の生産に努めましょう！！～

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	黄化萎縮病	-	移植後 10～50 日の間に冠水すると，発生の恐れがある。常発地では，冠水後に防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生時期：平年並 発生量：やや少ない	湛水状態は成・幼虫の活動に好適なため，適切な水管理をしてイネの健全育成に努める。
ナシ	アブラムシ類	発生量：やや少ない	5月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	5月下旬現在，発生は認められない。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在，発生は認められない。 開花期に降雨が続くと発生しやすいので注意する。
	べと病	発生量：平年並	5月下旬現在，発生は認められない。 開花期に降雨が続くと発生しやすいので注意する。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	5月下旬現在，発生は認められない。
	カキクダアザミウマ	発生量：平年並	5月下旬現在，発生は認められない。
スイカ	ハダニ類	発生量： やや多い	5月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	うどんこ病	-	5 月下旬現在，平年より多い発生である。罹病部は次作への伝染源となるので，栽培終了時に作物残さのハウス外への持ち出しを徹底する。
	褐斑病		

ナシを加害するハダニ類の薬剤抵抗性と防除について

ハダニ類は、薬剤抵抗性が発達しやすい代表的な害虫です。そこで、県内のナシ園における薬剤抵抗性の出現状況を調査するため、4種類の殺ダニ剤について検定を行いました。その結果を報告します。また、今後のハダニ類防除対策の注意点についてお知らせします。

【検定方法】

平成18年8月下旬～9月上旬の間に、県内4地点のナシ園から採集したハダニ類の雌成虫を検定に供試しました。これらをインゲンまたはナシ葉片に移し、それに所定濃度に希釈した薬液をガラス製噴霧器で散布しました。その24時間後に生存虫数と死亡虫数を調査し、補正死虫率を算出して薬剤の防除効果を確認しました。

【結果】

今回の検定結果は、以下の通りです（表1）。

- (1) コロマイト水和剤は、全地点で補正死虫率が100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (2) カネマイトフロアブル及びマイトコーネフロアブルは、いずれの地点でも補正死虫率が90%以上となり、高い殺虫効果が認められました。
- (3) タイタロンフロアブルの補正死虫率は、地点によって大きなばらつきがあり、薬剤感受性の低下した（薬剤に強い）ハダニ類の発生が疑われました。

表1 ハダニ類に対する各種薬剤の防除効果（処理24時間後補正死虫率¹⁾(%)

供試薬剤	希釈 倍数	採集地点	A	B	C	D
		ハダニの種類 ²⁾	ナミ	カザリ	カザリ	ミカ
カネマイトフロアブル (アセキノシル水和剤)	1,000		100	94	98	100
コロマイト水和剤 (ミルベメクチン水和剤)	2,000		100	100	100	100
タイタロンフロアブル (フルアクリピリム水和剤)	2,000		85	18	100	95
マイトコーネフロアブル (ビフェナゼート水和剤)	1,000		100	96	95	100

1) 補正死虫率(%) = {(対照区生存虫数 - 処理区生存虫数) / 対照区生存虫数} × 100

2) ナミ、カザリ及びミカは、それぞれナミハダニ、カンザワハダニ及びミカンハダニを表す。

使用した薬剤は、平成19年5月23日現在農薬登録のあるものです。

【防除対策の注意点】

- (1) ハダニ類は、高温乾燥の条件で発生が助長されるため、梅雨明けから急激に増加します。多発生すると防除が難しくなるので、発生初期の防除を徹底して下さい。
- (2) 本県のナシには、主にナミハダニ、カンザワハダニ、ミカンハダニなどが発生します。薬剤によっては、特定の種類のハダニに対して殺虫効果がないものがあります。防除を行う際には、そのナシ園で発生しているハダニの種類に合わせて、殺虫効果のある薬剤を選ぶことが必要です。
- (3) 今回の結果から、薬剤によっては薬剤感受性の低い（薬剤に強い）ハダニ類の出現が疑われる地点が認められました。薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一薬剤の使用は年1回として下さい。また、ある薬剤に対して抵抗性を持ったハダニは、同系統の別の薬剤に対しても同様に抵抗性を示すことがあります。なお、抵抗性出現のメカニズムの面から、サンマイト水和剤、ダニトロンフロアブル、マイトクリーン及びピラニカ水和剤は、同系統の薬剤とみなされますので、いずれか年1回の使用として下さい。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 5月26日から6月25日)

気象庁(5月25日 発表)

<向こう1か月の気温,降水量,日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月26日(土曜日)から6月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率60%

<2週目の予報> 6月2日(土曜日)から6月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 6月10日(土曜日)から6月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号:029(226)5321,6131

6月上旬 果樹および露地野菜の病害虫防除対策について

6月下旬 水稲および果樹の病害虫防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し,適用作物,使用方法,注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には,周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず,良く洗浄しましょう。